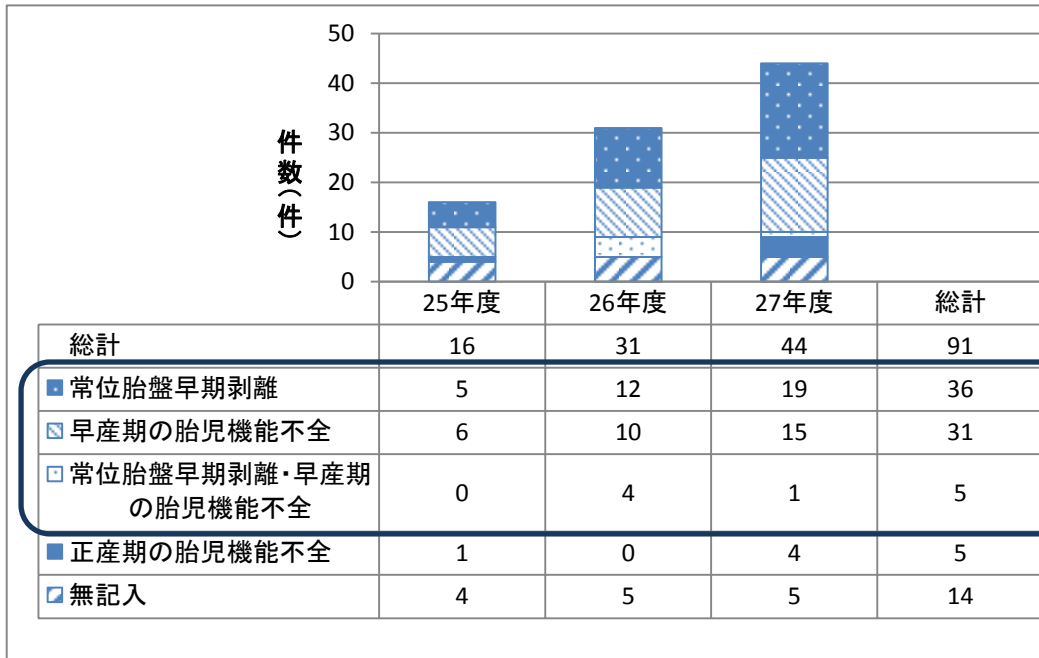


# 東京都胎児救急搬送システムによる搬送事例の状況

平成25年11月1日から平成27年12月31日報告受理分 91件

## 1 要請理由

- 常位胎盤早期剥離、早産期の胎児機能不全を要請理由としたものが、約8割であった。



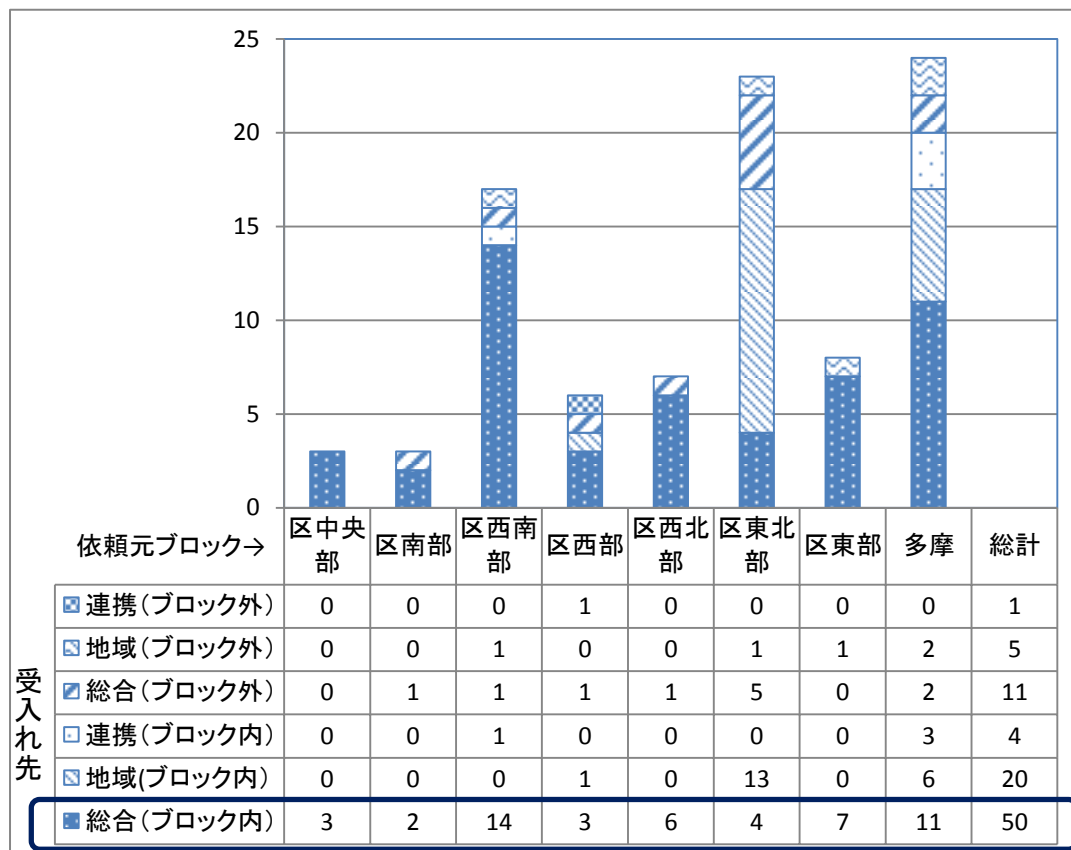
## 2 ブロック別件数

- 約8割の事例がブロック内の医療機関で受け入れられていた。

依頼元ブロック	区中央部		区南部		区西南部		区西部		区西北部		区東北部		区東部		多摩	総計			
依頼件数	3	100%	3	100%	17	100%	6	100%	7	100%	23	100%	8	100%	24	100%	91	100%	
受入先ブロック	区中央部	3	100%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	5	5%
	区南部	0	0%	2	67%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	4	4%
	区西南部	0	0%	1	33%	15	88%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	19	21%
	区西部	0	0%	0	0%	0	0%	4	67%	0	0%	0	0%	0	0%	2	8%	6	7%
	区西北部	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	6	86%	0	0%	0	0%	0	0%	6	7%
	区東北部	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	14%	17	74%	1	13%	0	0%	19	21%
	区東部	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	5	22%	7	88%	0	0%	12	13%
	多摩	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	20	83%	20	22%
ブロック内受入	3	100%	2	67%	15	88%	4	67%	6	86%	17	74%	7	88%	20	83%	74	81%	

### 3 受入れ病院種別

○ 6割弱の事例がブロック内の総合周産期センターで受け入れられている。



### 4 母の年齢

○ 30代が65例で約7割を占めている。

	人数	割合
19歳以下	0	0.0%
20～24歳	3	3.3%
25～29歳	15	16.5%
30～34歳	34	37.4%
35～39歳	31	34.1%
40～44歳	8	8.8%
45歳以上	0	0.0%
合計	91	100.0%
不明	0	

平均値 33.2 歳  
中央値 34.0 歳

## 5 妊娠週数

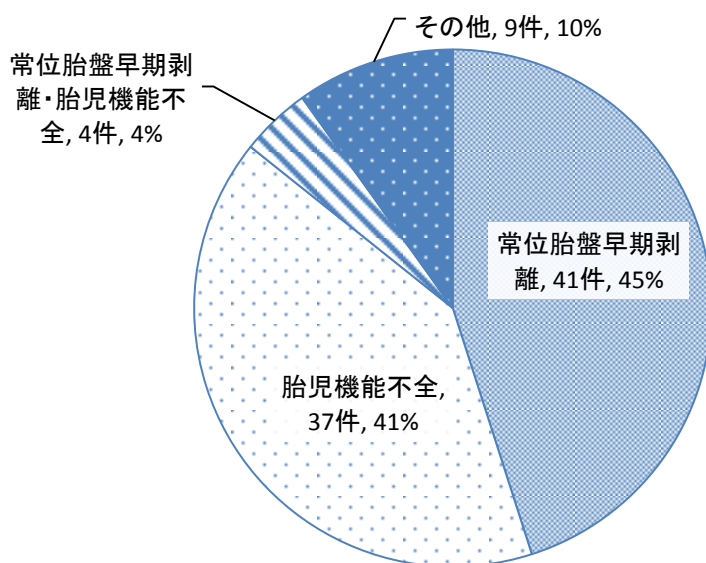
- 要請時の妊娠週数は22週から42週までに分布していた。
- 37週未満が約85%であった。

	人数	割合
37週未満	77	84.6%
うち34週未満	51	56.0%
37週以上42週未満	13	14.3%
42週以上	1	1.1%
合計	91	100.0%

平均値      32.0 週  
 中央値      33.0 週

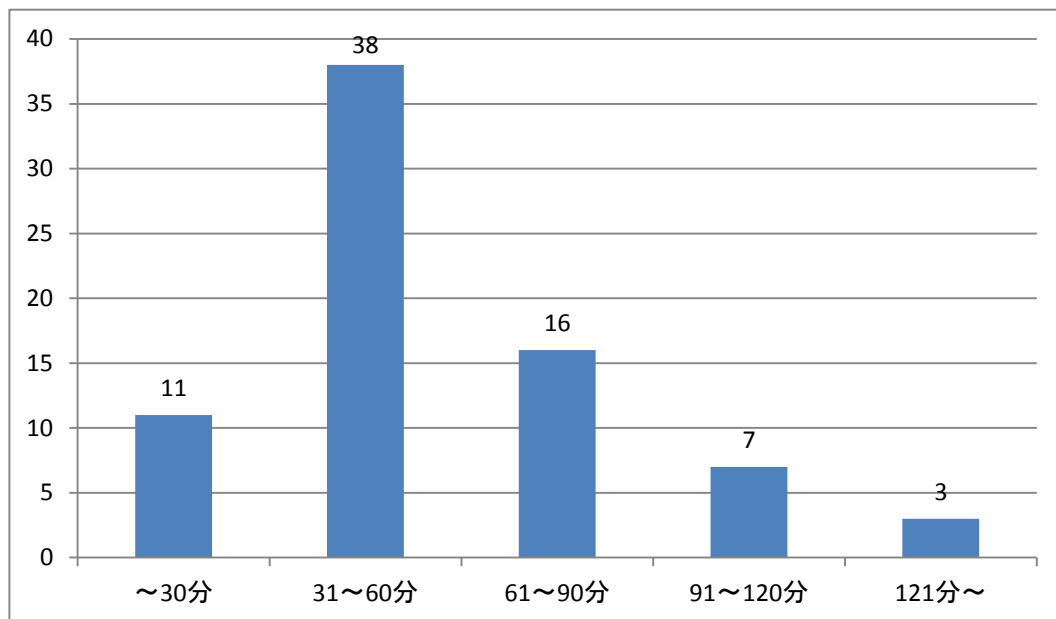
## 6 疾患名

- 搬送受入れ後の診断名は常位胎盤早期剥離が45%、胎児機能不全が41%であった。
- その他は9件で、子宮内胎児死亡、一過性胎児除脈、胎動減少、足位の陣発・排臨、切迫早産などであった。



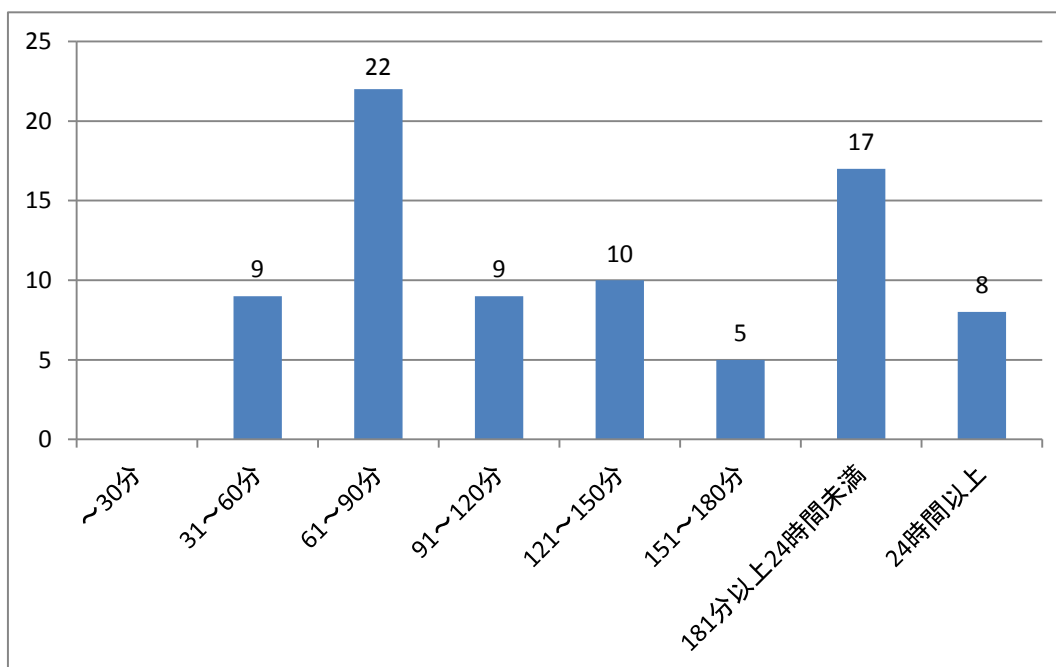
## 7 病着までの時間（要請から病着まで）

- 搬送要請時刻と病着時刻が分かっているのは75件であった。
- 75件の病着までの時間の平均は59分、中央値は54分であった。
- 75件の病着までの時間の最小値は17分、最大値は3時間48分であった。



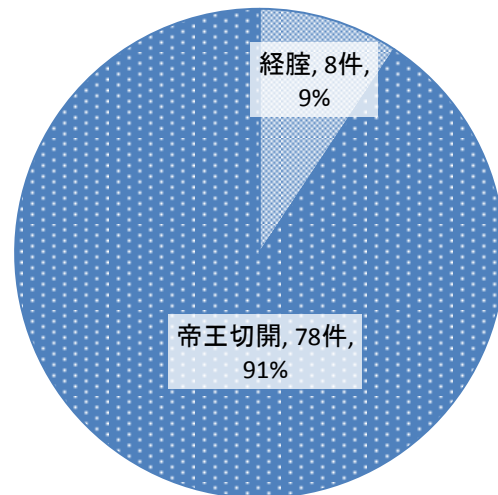
## 8 分娩までの時間（要請から分娩まで）

- 搬送要請時刻と分娩時刻が分かっている80件中、搬送要請から24時間以内に分娩となったのは72件であった。
- 72件の分娩までの時間の平均は2時間29分、中央値は1時間48分であった。
- 72件の分娩までの時間の最小値は40分、最大値は19時間39分であった。



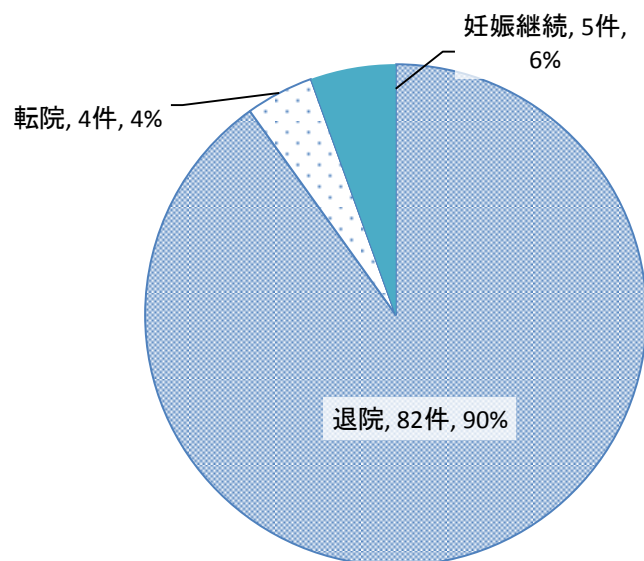
## 9 分娩様式

- 分娩様式は91%が帝王切開であった。
- 経膣分娩のうち、死産が5件であった。



## 10 母転帰

- 母の転帰は90%が退院であり、死亡したものはいなかった。



## 11 出生体重

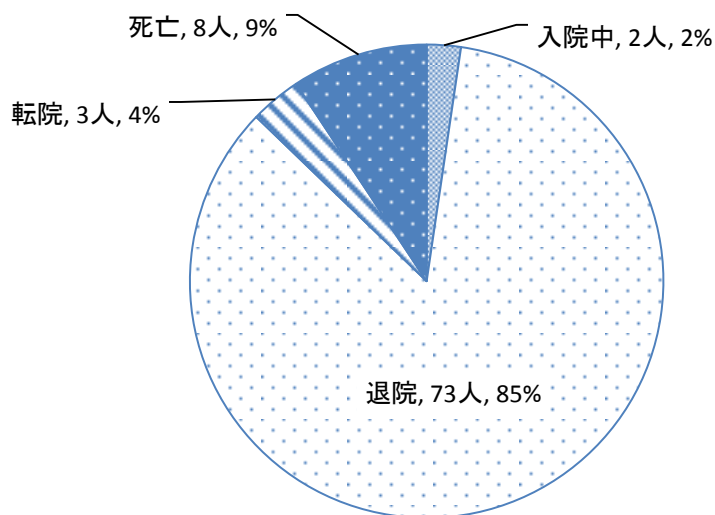
- 出生体重は458gから3598gまでに分布していた。
- 出生体重の平均は1776.3gで、中央値は1621.0gであった。

	人数	割合
1000g未満	15	17.4%
1000～1499g	22	25.6%
1500～2499g	35	40.7%
2500g以上	13	15.1%
不明	1	1.2%
合計	86	100.0%

平均値 1776.3 g  
中央値 1621.0 g

## 12 児の転帰

- 児の転帰は退院が73人（85%）、転院が3人（4%）であった。
- 死亡した8人は、子宮内胎児死亡が7人、生後39日での死亡が1人であった。



【参考】 アプガースコア

アプガースコア	1分後		5分後	
	件数	割合	件数	割合
0点	7	8.3%	5	6.1%
1点	8	9.5%	2	2.4%
2点	8	9.5%	1	1.2%
3点	5	6.0%	2	2.4%
4点	8	9.5%	1	1.2%
5点	6	7.1%	6	7.3%
6点	5	6.0%	6	7.3%
7点	6	7.1%	10	12.2%
8点	23	27.4%	11	13.4%
9点	8	9.5%	33	40.2%
10点	0	0.0%	5	6.1%
	84	100%	82	100%

**アプガースコア**

出生直後の新生児の皮膚色、心拍数、刺激に対する反射、筋緊張、呼吸について各2点、計10点満点で評価する。7点以上が正常、4～6点が軽症新生児仮死、3点以下が重症新生児仮死と診断される。

通常、生後1分と5分で判定を行い、5分値は児の神経学的予後とより強い相関を示す。

【参考】 臍帯動脈血pH

	人数	割合		
pH7.00未満	9	12.7%	平均値	7.222
pH7.00以上7.15未満	9	12.7%	中央値	7.272
pH7.15以上	53	74.6%		
合計	71	100.0%		
不明	8	-		
IUFD	7	-		

**臍帯動脈血pH**

臍帯動脈血pHは分娩時に児が低酸素等のストレスにさらされると低くなるため、分娩時の胎児に加わるストレスの指標の1つとされている。7.0未満を重症の酸欠症とする。

**IUFD**

子宮内胎児死亡。intrauterine fetal death